

第2次あげお子ども読書プラン実施状況表

第1章 子どもが読書に親しむための推進体制の整備

取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度	
				実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題
子どもの読書活動支援センターの役割	家庭・地域・学校と図書館の連携がスムーズに進むように、コーディネートを行う	① 子どもの本や読書活動についての調査・研究・公表を行う	図書館（子どもの読書活動支援センター）	今年度末までの家庭・地域・学校の子ども読書プラン進捗状況調査回答シートを2月中に作成した。	昨年度末までの家庭・地域・学校の読書プラン進捗状況ととりまとめ5月を目途に図書館HPで公開する。	引き続き、今年度末までの家庭・地域・学校の子ども読書プラン進捗状況調査回答シートを作成した。	昨年度末までの家庭・地域・学校の読書プラン進捗状況ととりまとめ、図書館HPで公開する。
		② 学校と図書館のパイプ役を努める		「読書パスポート」の配布、「あっぱいぶつくるセット本」の巡回、団体貸出等の連携事業に加え、司書教諭やアピースマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係わる講座を開いた。 ・司書教諭・学校図書館支援員研修「子どもたちを本好きにしよう 本と出会うきっかけはブックトーク」を開催 参加者21人 ・学校図書館支援員研修「学校図書館のつくり方」子どもたちの使いやすい図書館」講座を開催 参加者 45人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡をする。6回	引き続き、学校の要望を聞きながら連携がスムーズに進むように努める。	引き続き、「読書パスポート」の配布、「あっぱいぶつくるセット本」の巡回、団体貸出等の連携事業に加え、司書教諭やアピースマイル学校図書館支援員向けの学校図書館運営に係わる講座を2回実施 ・「赤木かん子さんの学校図書館の作り方～魅力ある自然科学の棚づくり～」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人	学校図書館の充実の為、アピースマイル学校図書館支援員への支援を引き続き行う。
		③ 家庭・地域・学校の本や読書活動に関するニーズを収集し、図書館の児童サービスの向上につなげる		講座・イベント終了時に参加者にアンケート調査を行い、今後のサービスにつなげるよう検討した。	引き続きアンケート調査を実施し、分析結果を今後の児童サービスの向上につなげる。	講座・イベント終了時に参加者にアンケート調査を行い、今後のサービスにつなげるよう検討した。	引き続きアンケート調査を実施し、今後の児童サービスの向上につなげる。
		④ 子どもの本に関するボランティアの紹介と、それを必要とする団体などの橋渡しをする		市内書店組合、学校朝読書、公民館などの求めに応じ、支援センター所属のAYYレンジャー(読み聞かせボランティア)の情報などの情報を紹介し、活動につなげた。	引き続き、市内各団体の求めに応じ、読み聞かせボランティアの情報を提供する。	学校朝読書、公民館などの求めに応じ、AYYレンジャー(読み聞かせボランティア)の情報などを紹介し、活動につなげた。	引き続き、市内各団体の求めに応じ、読み聞かせボランティアの情報を提供する。
	<家庭への支援> 子どもや、子どもを取り巻く大人たちに読書の楽しさを普及する	① 本に関する情報を収集・提供する		平成29年度から、保育所・幼稚園の中で絵本を巡回貸出する「えほんあっぱいぶつくる」事業を開始する。この絵本のリストを公開する準備を進めた。	子どもの読書活動支援センターが推奨する本のリスト作成を行い、家庭・学校・地域に向けて提供する。	引き続き、子どもの読書活動支援センターが、推奨する本のリスト作成を行い、家庭・学校・地域に向けて提供する。 ・学校の要望に答えるため、読み聞かせボランティアの資質の向上と育成に努める。	
		② 子どもや青少年向け読書イベントを開催する		<支援センター子ども向けイベント> ※学校で行った分、おはなし会を除く 年間 延6回、参加者 延大人93人、子供272人	引き続き、対象者のニーズに対応した事業を行う。	<支援センター子ども向けイベント> ※おはなし会を除く 年間 4回、参加者 大人56人、子供75人	イベントに参加することにより、読書活動につながるような図書館ならではのイベントを行う。
		③ 保護者向け読書講演会や講座を開催する		<支援センター保護者向け事業> 年間 延3回、参加者 延93人	引き続き、対象者のニーズに対応した事業を行う。	<支援センター保護者向け事業> 年間 2回、参加者 大人119人、子供8人	家庭における読書活動が進むように、保護者を対象とした講演会・講座を引き続き実施する。
	<地域への支援> 読み聞かせボランティア、家庭児童文庫や子どもの読書活動推進団体を支援し、これらと連携して地域とともに「読み聞かせのまちあげお」を実現させる	① 読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催する		<支援センターボランティア向け事業> 年間 延2回、参加者 延70人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 2回、参加者 47人 <読み聞かせボランティア団体への支援センター職員の講師派遣> 年間 11回、参加者 121人	引き続き、対象者のニーズに対応した事業を行う。	<支援センターボランティア向け事業> 年間 2回、参加者 42人 <学校応援団への支援センター職員の講師派遣> 年間 1回、参加者 7人 <読み聞かせボランティア団体・中学生ボランティアへの支援センター職員の講師派遣> 年間11回、参加者 78人 <他館との連携での支援センター職員の講師派遣> 年間 1回、参加者 40人	読み聞かせボランティアが、円滑に活動できるように、資質向上につながる講座を企画し、参加してもらえるようにする。
		② 読み聞かせボランティアの活動場所を確保する		・市内書店組合に読み聞かせボランティア情報を提供し、書店での活動につなげた。 ・ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した 年間 28回 ・分館・公民館図書室での読み聞かせ 261回	ボランティアと、ボランティアを必要としている団体への橋渡しを引き続き行う。 ・ボランティアが活動するために気軽に利用できる打ち合わせ・研修会場を確保する。 ・新館にはボランティアが優先的に利用できる部屋を設ける。	ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間22回	ボランティアが活動できる研修会場を確保する。
		③ 読み聞かせボランティアへの本に関するアドバイスを行う		<支援センターのアドバイス事業> 講座以外で子どもの本に関する相談を受けた。 年間 1回 ・「広報あげお」平成29年4月号に、相談業務のPR記事を掲載する準備を行った。	特に学校応援団など、図書館になじみのない人たちが、支援センターに気軽に相談に来られるような体制や場所をつくる。	<支援センターのアドバイス事業> 講座以外で子どもの本に関する相談を受けた。 年間12回 ・「広報あげお」平成29年4月号に、相談業務のPR記事を掲載した。	学校応援団など、どんな本を選んだらいいかわからない人に、支援センターに気軽に読書相談に来られるような体制や場所をつくる。
		④ 家庭児童文庫の支援を行う		平成28年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3家庭児童文庫に交付 ・文庫活動 シラコハト団地自治会 ・おひさま文庫 ・富士見団地自治会児童図書	子どもの読書活動推進事業補助金を交付する。	平成29年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3家庭児童文庫に交付 ・文庫活動 シラコハト団地自治会 ・おひさま文庫 ・富士見団地自治会児童図書	引き続き、子どもの読書活動推進事業補助金を交付する。
		⑤ 子どもの読書活動推進団体への支援を行う		平成28年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の2団体に交付 ・児童文学朗読会実行委員会 ・サイエンスの社ワンダーワンダー	子どもの読書活動推進事業補助金を交付する。 ・制度の周知につとめる。	平成29年度子どもの読書活動推進事業補助金を以下の3団体に交付 ・サイエンスの社ワンダーワンダー ・児童文学朗読会実行委員会 ・あげお児童えほん研究会	引き続き、子どもの読書活動推進事業補助金を交付する。 ・制度の周知につとめる。

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度		
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題	
1	子どもの読書活動支援センターの役割	家庭・地域・学校の連携のコーディネート	<p>4 &lt;学校への支援&gt; 学校や学校図書館の充実を図り、朝読書や読書タイム、学校の授業で読み聞かせや本の紹介を行う</p> <p>4 &lt;学校への支援&gt; 学校や学校図書館の充実を図り、朝読書や読書タイム、学校の授業で読み聞かせや本の紹介を行う</p>	図書館（子どもの読書活動支援センター）	平成28年度あつぴい ぶつくるセット本の活用 幼稚園 8回 120冊 小学校 112回 10,440冊 中学校 33回 990冊 合計 153回 11,550冊	あつぴい ぶつくるセット本事業の円滑な運営に努める。	平成29年度えほんあつぴい ぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 平成29年度あつぴい ぶつくるセット本の活用 小学校 92回 8,280冊 中学校 44回 1,320冊 合計 136回 9,600冊	引き続き、あつぴい ぶつくるセット本事業の円滑な運営に努める。	
					<p>① あつぴい ぶつくるセット本事業の円滑な運営を行う</p>	<p>② アップスマイル学校図書館支援員研修会への講師派遣や助言、講師の紹介</p> <p>・司書教諭・学校図書館支援員研修「子どもたちを本好きにしよう 本と出会うきっかけはブックトーク」を開催 参加者 21人 ・学校図書館支援員研修「学校図書館のつくり方～子どもたちの使いやすい図書館～」講座を開催 参加者 45人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡を行った。6回</p>	<p>計画的に講師派遣や助言を行い、学校図書館運営の実践力の積み重ねができるよう努める。</p>	<p>・司書教諭・学校図書館支援員研修「赤木かん子さんの学校図書館の作り方」魅力ある自然科学の「棚づくり」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡を行った。8回</p>	<p>計画的に講師派遣や助言を行い、学校図書館運営の実践力の積み重ねができるよう努める。</p>
					<p>③ 学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座などへ講師を派遣する</p>	<p>・学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座への講師派遣 2回 中央小学校 1回 参加者 5人 上尾小学校 1回 参加者40人 ・先生方の校内研修「読み聞かせの仕方」 芝川小学校 1回 参加者 23人 「道徳資料の読み方」 富士見小学校 1回 参加者 31人</p>	<p>学校応援団の読み聞かせボランティア向け初心者講座などへの講師派遣ができることを知らせ、その活用を図る。</p>	<p>学校主催の読み聞かせボランティア初心者講座への講師派遣を行った。 中央小学校 1回 参加者 7人</p>	<p>学校応援団の読み聞かせボランティア向け初心者講座などへの、講師派遣ができることを知らせ、その活用を図る。</p>
					<p>④ 学校に向かいの読書イベントを開催する</p>	<p>読書イベント 2回実施 ・「子ども読書の日関連イベント 絵本シアター」 芝川小学校 全校児童581人 教職員 25人 合計 606人 ・「教育長のおもしろサイエンスショー」 富士見小学校 6年生 137人 教職員 5人 合計 142人</p>	<p>学校の要望に応えながら、計画的に事業を進めていく。</p>	<p>読書イベント 2回実施 ・「全校おはなし会『とんでもない!』」 芝川小学校 全校児童 560人 教職員 3人 合計 563人 ・「富士見小学校5年生ブックトーク」 富士見小学校 5年生 117人</p>	<p>普段図書館にこない子供たちや、読書習慣のない子供たちが、学校で読書イベントをすることで、本に興味を持ってもらう。</p>
2	読書活動の推進(子どもの読書活動に関わる関係各課)	(仮称)子どもの読書活動推進連絡会の開催	図書館、読書活動推進に関わる関係各課で、(仮称)子どもの読書活動推進連絡会を開催する	① 連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・子どもの読書活動推進計画の進捗状況の把握	関係各課の、子どもの読書プラン進捗状況を把握した。	連絡会を開催するための条例・規則等の研究に努める。	関係各課の、子どもの読書プラン進捗状況の把握を行った。	連絡会を開催するための条例・規則等の研究に努める。	
3	図書館・学校・学校図書館の連携	(仮称)図書館・学校・学校図書館連絡会の開催	図書館・学校・学校図書館連絡会を開催する	① 連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・司書教諭と図書館司書の情報交換 ・学校図書館と図書館との連携	未実施	子どもの読書活動支援センターが指導課とともにしている司書教諭研修・学校図書館支援員研修等を発展する形で開催を目指していく。	未実施	子どもの読書活動支援センターが、指導課とともにしている司書教諭研修・学校図書館支援員研修等を発展する形で、開催を目指していく。	
4	読み聞かせボランティア相互の情報交換	(仮称)読み聞かせボランティア連絡会の開催	読み聞かせボランティア連絡会を開催する	① 連絡会を開催する ・連絡会の設置 ・読み聞かせボランティア相互の交流や情報交換 ・スキルアップ	第1回 読み聞かせボランティア会議を開催した。 参加者 16人	年間2回程度、連絡会を開催し、図書館とボランティア、ボランティア相互の情報交換をする。	第1回 読み聞かせボランティア会議を開催した。 参加者 10人	引き続き連絡会を開催し、図書館とボランティア、ボランティア相互の情報交換をする。	
				② 読み聞かせボランティア養成や資質向上のための講座を開催する	<p>&lt;支援センターボランティア向け事業&gt; 年間 延2回、参加者 延70人 &lt;学校応援団への支援センター職員の講師派遣&gt; 年間 2回、参加者 47人 &lt;読み聞かせボランティア団体への支援センター職員の講師派遣&gt; 年間11回、参加者121人</p>	引き続き、対象者のニーズに対応した事業を行う。	<p>&lt;支援センターボランティア向け事業&gt; 年間 2回、参加者 42人 &lt;学校応援団への支援センター職員の講師派遣&gt; 年間 1回、参加者 7人 &lt;読み聞かせボランティア団体・中学生ボランティアへの支援センター職員の講師派遣&gt; 年間11回、参加者 78人 &lt;他館との連携での支援センター職員の講師派遣&gt; 年間 1回、参加者 40人</p>	引き続き、対象者のニーズに対応した事業を行う。	
				③ 読み聞かせボランティアの活動場所を確保する	<p>・市内書店組合に読み聞かせボランティア情報を提供し、書店での活動につなげた。 ・ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間 28回 ・分館・公民館図書室での読み聞かせ 261回</p>	<p>・ボランティアと、ボランティアを必要としている団体への橋渡しを引き続き行う。 ・ボランティアが活動するために気軽に利用できる打ち合わせ・研修会場を確保する。 ・新館にはボランティアが優先的に利用できる部屋を設ける。</p>	<p>ボランティア主催の研修の場所として、富士見小学校開放教室などを開放した。 年間22回</p>	<p>・ボランティアと、ボランティアを必要としている団体への橋渡しを行う。 ・ボランティアが活動するために、利用できる研修会場を確保する。</p>	

第2章 読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度		
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題	
1 図書館	1 図書館の役割	豊富な「本」と児童サービスに関する「経験」で「読み聞かせのまち あげお」を支える	① 図書館児童室を居心地の良いフロアにするよう努める。青少年コーナーについては、友人同士など複数で気軽に来館し、滞在を楽しむことができるような仕掛けづくりをする	図書館	展示や掲示物など明るい色合い・ポップなど工夫し、入りやすいフロア環境に努めた。	棚の本を見てみたいと思えるようなフロア・コーナーづくりを継続して行う。	・展示コーナーや掲示物など、児童が関心を示すような工夫をし、また児童が入りやすいような声掛けなどをした。 ・青少年コーナーも、展示や掲示物は、目につきやすく明るい色合いを心がけ、面出し等で手に取りやすい環境づくりを行った。	・児童が関心を示す様なフロアづくりをしていきたい。 ・青少年コーナーでは、年4回の特集展示とは別に、青少年時代に身近なテーマの小規模展示を計画する。	
			② 児童書・児童サービスに関する県主催の専門研修(年5回開催)などに積極的に参加し常に職員のスキルアップに努める		埼玉県図書館協会が主催する研修(全5回)に出席し、職員のスキルアップに努めた。平成28年度参加職員 2人	来年度以降も継続する。	引き続き、埼玉県図書館協会が主催の専門研修(全5回)に出席し、職員のスキルアップに努めた。 平成29年度職員2名参加	児童書・児童サービスに関する専門研修を積極的に参加し、職員のスキルアップに努める。	
			③ 良い本を子どもや保護者と結び付けることができるよう努める		展示や「こどもしつだより」などの情報紙などでさまざまな本の紹介を行った。	来年度以降も継続する。	引き続き、展示や「こどもしつだより」などを決め、さまざまな本の紹介をした。	本の展示の工夫で、あまり貸出がされなかった本が貸出されることがあるので、子供たちが興味を持つ展示をし、良い本を多く紹介したい。	
			④ 図書館や本に興味を持てるように読書相談や読み聞かせ・読書イベントなどを行う		夏休み期間中の科学遊びや体験図書館員、秋の図書館まつり内での児童向けイベントを通じて本に興味をもってもらうイベントの企画を行った。 参加者 264人	来年度以降も継続する。	「子ども読書の日」に併せた本のクイズ、夏休み期間中の科学遊びや体験図書館員、秋の図書館まつりでの児童向けイベントを通じて、子供たちに読書のきっかけになるようなイベントの企画を行った。 参加者 244人	子供たちに、図書館や本に興味を持ってもらえるような、イベントになるように検討する。	
			⑤ 学校やほかの教育施設と連携を図り、よりよい読書環境をつくる		学校の調べ学習に役立つ本の提供 市内小・中学校延37校利用 993冊	来年度以降も継続する。	引き続き、学校から依頼を受け調べ学習に役立つ本を提供した。 平成30年3月末市内小・中学校 43校利用 976冊	更に、学校などの教育施設と連携が取れるようにする。	
	2 資料の充実	子どもが感性を磨き、表現力や想像力を高め、知的欲求を満たすことができる魅力ある蔵書を構築する	① 利用者の需要や児童向け書籍の出版状況を把握して、魅力ある資料をバランスよく収集する	最新の出版された本を中心に読物や調べ学習に役立つ本を収集した。(1,518冊)	来年度以降も継続する。	最新の出版された本を中心に、絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した(平成30年3月末 3,263冊)。	新しく出版された本の中から子供たちにとって良い本を収集できるように情報収集や研究に努める		
			② 子どもの調べものや読書案内に的確に対応できるように資料収集に努める	最新の出版された本を中心に読物や調べ学習に役立つ本を収集した。(1,518冊)	来年度以降も継続する。	最新の出版された本を中心に絵本、読物や調べ学習に役立つ本を収集した(平成30年3月末 3,263冊)。	最新の調べ学習に役立つ本を購入し、最新の情報を把握できるように、本の入れ替えができるようにする。		
			③ 電子書籍など新たな資料について研究し、児童室での利用において紙媒体での提供より利点が多い分野について導入を検討する	今後検討	他市町村の状況をみながら引き続き検討する。	今後検討	他市町村の状況をみながら、引き続き検討する。		
			④ 青少年世代が直面する人生のさまざまな課題について思索を深めたり、さまざまな切り口の読書体験を通して読書の多様性を実感できる資料を充実させる	新しく出版された本や、ここ数年の間に出版された本を中心に、幅広い分野の資料を収集した。(628冊)	来年度以降も継続する。	新しく出版された本や、ここ数年で出版された本を中心に、幅広い分野の資料を収集した(平成30年3月末 716冊)。	次年度も継続する。		
			⑤ 青少年コーナーを公民館図書室にも置き、青少年図書を買・量ともに充実させる	今後検討	公民館図書室の利用者層、予算、配架場所等を含め引き続き検討する。	・効率よく資料を配分するため、利用状況の確認を行った。 ・利用の少ない分館(平方)から青少年コーナーを引き上げ、利用の多い館(大石)の資料を充実させることを検討した。	・分館担当と平方分館からの青少年コーナー引き上げについて協議する。 ・予算と資料を集中させ、青少年コーナーの充実を図り青少年コーナーのない分館・公民館図書室を利用する青少年に向けてPRを行う。		
	3 年代別サービス	1 乳幼児向けサービスの向上を図る	①	・妊婦教室などで赤ちゃんの絵本に関する啓発パンフレットを配布する ・ブックスタート事業を継続する ・「あかちゃんおはなし会」を開催する ・東保健センターを会場に、子どもの読書活動支援センターが「おやこでえほんサロン」を開催する	健康増進課	・4か月児健康診査会場において、ブックスタート事業を実施。 ・子どもの読書活動支援センターに「おやこでえほんサロン」会場を提供している。	来年度以降も継続する。	引き続き、4か月児健康診査会場において、ブックスタート事業を実施した。 月2回・年間24回	次年度も継続する。
				図書館	ブックスタート事業として4か月検診の際、絵本2冊と赤ちゃん向けのブックリストを渡している(平成28年12月現在1194人)。 赤ちゃんおはなし会を月1回実施(参加者平均15組) おやこでえほんサロン(参加者 大人188人 子ども202人)	来年度以降も継続する。	引き続き、ブックスタート事業として4か月検診の際、絵本2冊と赤ちゃん向けのブックリストを渡している(平成30年3月末 1,531人) 赤ちゃんおはなし会を月1回実施(平成30年3月末 265人)	次年度も継続する。	

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度		
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題	
					1 図書館	3 年代別サービス	2 幼児・小学生向けサービスの向上を図る	① 市内各館(室)で未就学児から小学生を対象とした「えほんのじかん」「おはなし会」を開催する	図書館
② 子どもたち一人ひとりを本と結びつけるために、図書館職員がフォローワークやブックトークを行う	展示やイベントを通じて本の紹介を行った。展示 年間5回、本にまつわるクイズやクリスマスなどのイベント 年2回	来年度以降も継続する。	引き続き、展示やイベントを通じて本の紹介を行った。展示 年間5回、本にまつわるクイズやクリスマスなどのイベント 年2回	次年度も継続する。					
3 青少年向けサービスの向上を図る	① 学校へ出向いて直接生徒に本の魅力を伝える、ブックトークの充実や多様な参画の形態を工夫した青少年向けの取組を実施する	ブックトークについては未実施。ブックトークに関する研修に職員2人が参加した。	職員のスキルアップに努め、ブックトークなどの依頼に対応できる体制を整える。青少年と読書を結びつける取組を実施する。	ブックトークや青少年向けイベントは未実施。4月に「Next Generation増刊号」として、人気の高い本のランキングや新しく受け入れた本を掲載し、興味を持ってもらえるように働きかけた。			各学校へ出向いて行う事業は、負担が大きく実施が難しいため、本への興味を促す仕掛けを検討する。		
	② 中学生の社会体験事業や、高校生のインターンシップの受入を実施し、図書館に対する意識を高めてもらう	中学生の社会体験事業(4回、計12名)、高校生のインターンシップ(1回、2名)の受入を実施した。	来年度以降も継続する。	他事業との関係で回数を限定したが、中学生の社会体験事業(1回3名)の受入を行った。			対応可能な範囲で、来年度以降も継続して受入を行う。		
	③ 中高生が主体的にかつ双方向のコミュニケーションを図れるような情報紙づくりや読書に関するイベントを企画運営、参加できる仕組みをつくる	本館青少年コーナーの投稿箱に投稿された本の紹介文を展示、保存を行った。中高生が主体となった情報誌やイベントについては未実施。	投稿箱は引き続き実施する。中高生が主体となった情報紙作りは、時代に合わせ、SNS等を活用した新しい取組へと見直しをする。ピブリオバトル等の参加型イベントを企画する。	本館青少年コーナーの投稿箱に投稿されたおすすめ本の紹介文を展示した。「Next Generation」の発行に合わせてtwitterで展示テーマの紹介を発信した。			投稿箱は引き続き実施する。大規模なイベントは難しいが、読書に親しめるような取組を検討する。		
	④ 市内小・中学校と図書館をオンラインで結び、生徒が学校で市立図書館の本の予約・貸し出しなどができるようにするなどを検討する	今後検討	市内小・中学校と図書館は採用しているシステムが統一されていないため、どう結び付けるかが今後の検討課題となる。図書館から小中学校に貸し出す本、「あつびいぶつくるセット本」を学校のシステムで各児童生徒に貸し出せるようにすることを関係各課と検討する。	今後検討			市内小・中学校と図書館は、採用しているシステムが統一されていないため、どう結び付けるかが今後の検討課題となる。図書館から小中学校に貸し出す本、「あつびいぶつくるセット本」を学校のシステムで、各児童生徒に貸し出せるようにすることを関係各課と検討する。		
4 図書利用に障害のある子どもへのサービス	1 図書利用にどのような障害をもつかを把握しニーズに対応した適切な支援を行う	① 障害児や保護者、教員が必要とする資料や機器を収集・整備し、活用を図る	点字つき絵本など、さわる絵本を7冊購入をした。※支援センターの資料として 点字付き6冊含む	来年度以降も継続する。		点字つき絵本など、さわる絵本の購入をした。点字付き11冊	次年度も継続する。		
		② 日本語を母語としない子どもたちの状況とニーズを把握、外国語の図書資料などの収集に努める	英語が母国語でない利用者にも対応できるよう絵でみてわかる日本の生活習慣に関する本の購入に努めた。6冊購入 ※支援センターの資料として 外国語4冊含む	来年度以降も継続する。		英語が母国語でない利用者にも、対応できるよう、絵で見分ける日本の生活習慣に関する本の購入に努めた。10冊購入	次年度も継続する。		
2 家族	1 乳児期	1 優しくたくさん語りかけ、一緒に絵本やわらべうたを楽しむ	① ・ブックスタート事業で配布されたブックリストや「えほんのきろく」などを参考に、親子で本に親しむ。「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」に参加する。参加者 144組313人(あかちゃんおはなし会) 188組390人(おやこでえほんサロン)	家庭		ブックスタートをきっかけに、0歳児から絵本を楽しむこと、親子で絵本を楽しむことの大切さなどに気づき、その場で紹介された「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」に参加する親子が多い。そこで、集団で絵本を楽しむことの楽しさを親子で体感した。参加者 144組313人(あかちゃんおはなし会) 188組390人(おやこでえほんサロン)	・ブックスタート期から、親子で絵本に親しむ。・ブックスタートで紹介された子どもの絵本の行事に積極的に参加する。	ブックスタートをきっかけに、0歳児から絵本を楽しむことできることに気づき、「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」では、親子でわらべうたや絵本を楽しんだ。参加者 大人131人、子供265人(あかちゃんおはなし会) 大人148人、子供162人(おやこでえほんサロン)	乳幼児から親子で絵本を親しみ、絵本を通して親子のコミュニケーションを図る。
	2 幼児期	1 多くの絵本を読み聞かせる。図書館の読み聞かせなどに参加する	① 「えほんのじかん」「おはなし会」などに参加して、集団でおはなしを聞く楽しさを味わう。参加者394人(絵本の時間)			乳児期から「あかちゃんおはなし会」「おやこでえほんサロン」などに参加していた子供たちが少し大きくなり、子供自身が絵本を読む楽しさに気づき、主体的に「えほんのじかん」や「おはなし会」に参加している様子が見受けられる。参加時に「えほんのきろく」にスタンプを押してもらえることも楽しみのひとつになっている。参加者394人(絵本の時間)	※子どもの読書活動支援センターの取組「絵本の黄金期(絵本にかかわる第1期)」におはなし会に数多く参加するよう、家庭に働きかける。	・乳児期より「あかちゃんおはなし会」や「おやこでえほんサロン」などに参加していた子供たちが幼児期になり、自分で絵本を読む楽しさや、自分の好きな絵本を選んで読む楽しさを紹介した。「えほんのじかん」や「おはなし会」では、子供が主体的に参加し楽しんだ。・参加時に「えほんのきろく」に押すスタンプが周知できた。参加者 大人409人 子供680人(本館・分館絵本の時間)	子どもの読書活動支援センターの取組「絵本の黄金期(絵本にかかわる第1期)」に、おはなし会に数多く参加するよう、家庭に働きかける。
	3 少年期	1 「読書パスポート」を活用して親子で本に親しむ	① ・「読書パスポート」を通して、本について親子で話す時間を作る。・図書館や学校で発行する「本の紹介」などを活用してさまざまな本に出会う			自分で本を選び、楽しむことができるひとりで読みの時期に、「読書パスポート」の活用を通じて本に親しんでいる姿が見受けられる。読書パスポート配布数1,913人(新1年生)	※子どもの読書活動支援センターの取組「乳児期～小学校低学年の子供たちが絵本に親しむことは、概ね達成されている。今後は小学校高学年の子供たちが引き続き読書に親しむための工夫について学校・地域の働きかけが必要である」と考える。アンケートなどを実施し、把握につとめる。	・新1年生に配布される「読書パスポート」を活用して、自分で好きな本を選んで楽しんでいる様子が見受けられた。・調べ学習などで本の活用も増えた。読書パスポート配布数1,826人(新1年生)	子どもの読書活動支援センターの取組「乳児期～小学校低学年の子供たちが絵本に親しむことは、概ね達成されている。・今後は、小学校高学年の子供たちが、引き続き読書に親しむための工夫について、学校・地域の働きかけが必要であると考える。

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度	
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題
					2 家族	4 青年期	1 「いつでもどこでも本が手に取れる」環境づくりを進める	① ・読書活動を通じた子どもの成長を温かく見守る ・大人も読書に積極的に親しむ姿を見せる
3 地域	1 幼稚園・保育所・子育て支援センター	1 市立幼稚園・市立保育所・子育て支援センターの図書の実態を図る	① 幼稚園・保育所・子育て支援センター内の図書冊数、内容の充実を図る	保育所	保育所ごとに、定期的に絵本を見直しを行い、内容の充実を図っている。	来年度から「えほんあつぱいぶつくる」の活用が始まるため、保育所の絵本とあわせて、更に充実することが期待できる。	保育所毎に、定期的に絵本の見直しを行い、内容の充実を図っている。	保育所の絵本とあわせてあつぱいぶつくる本を活用し、様々な絵本と出あえる機会を作っていく。
				幼稚園	幼稚園の図書冊数、内容の充実は図れなかった。	幼稚園の図書冊数、内容の充実を図るよう努める。	子供の実態に合わせ、不足している図書を計画的に購入した。	子供の実態に応じて図書を購入し、冊数や内容の充実を図る。
			② 図書館の団体貸出・あつぱいぶつくる本、図書のリサイクルを活用し、図書の充実を図る	保育所	保育所ごとに、図書館での貸し出し本、リサイクル本を活用し、絵本の充実を図っている。	「えほんあつぱいぶつくる」の活用を進めていく。	平成29年度は、あつぱいぶつくる本を活用し、様々な絵本に触れる機会となった。	図書館の団体貸出・あつぱいぶつくる本、図書のリサイクルなども活用し、図書の充実を図っていく。
				幼稚園	「あつぱいぶつくるセット本」や、平方小学校の図書室を活用して図書の充実を図った。	引き続き、「あつぱいぶつくるセット本」や、平方小学校の図書室を活用して図書の充実を図る。	年間合計5回、あつぱいぶつくる本を活用した。 ・図書のリサイクルも活用し、図書の充実を図った。	図書館の団体貸出・あつぱいぶつくる本、図書のリサイクルを活用を継続する。
		① 日々の保育の中でさらに、絵本の読み聞かせを組み込む	子育て支援センター	・月2回絵本・紙芝居・パネルシアター等を楽しむ講座「みんなのおはなし」を開催 ・火曜日を除く開館日の夕方に絵本等の読み聞かせを実施	継続して実施する予定	・月2回、絵本・紙芝居・パネルシアター等を楽しむ講座「みんなのおはなし」を開催 ・火曜日を除く開館日の夕方に、絵本等の読み聞かせを実施	継続して実施する予定	
			保育所	落ち着いた環境の中で、絵本に親しんでもらえるよう、場所や時間など工夫して、取り組んでいる。	保育所の絵本に加え、「えほんあつぱいぶつくる」を活用し、更に絵本の読み聞かせを充実させていく。	落ち着いた環境の中で、絵本に親しんでもらえるよう、場所や時間など工夫して、取り組んでいる。	絵本に親しんでもらえるよう、今後も工夫して取り組んでいく。	
			幼稚園	日々の保育の中で担任から絵本の読み聞かせを行った。	引き続き、日々の保育の中で担任から絵本の読み聞かせを行う。	毎日、絵本の読み聞かせをした。	次年度も継続する。	
			子育て支援センター	・年3回、子どもの読書活動支援センターに依頼し、「みんなのおはなし」に参加協力によるコラボレーションを実施	継続して実施する予定	年2回、子どもの読書活動支援センターに依頼し、「みんなのおはなし」に参加協力によるコラボレーションを実施	継続して実施する予定	
		② 図書館職員やボランティアによる人形劇やおはなし会を取り入れる	図書館(子育て支援センター)の読書活動	子育て支援センターあつぱいぶつくるコラボ事業「みんなのおはなし with 子どもの読書活動支援センター」の開催 年間2回 参加者大人31人子供33人	引き続き、関係各課の事業に職員を派遣し、おはなし会などを行う。	子育て支援センターあつぱいぶつくるコラボ事業「みんなのおはなし with 子どもの読書活動支援センター」の開催 年間2回 参加者 大人33人 子供33人	要望に応じて、人形劇やおはなし会を開催する。	
			保育所	保育所ごとにボランティアによる、素話や読み聞かせの会を企画し、子供たちにとって良い経験となった。	引き続き事業を企画し、おはなしや絵本に親しむ機会を作っていく。	保育所ごとに、ボランティアによる素話や読み聞かせの会を企画し、子供たちにとって良い経験となった。	引き続き事業を企画し、お話や絵本に親しむ機会を作っていく。	
			幼稚園	ボランティアによる人形劇や、平方小学校の図書委員会による読み聞かせ交流を行った。	引き続き、ボランティアによる人形劇や、平方小学校の図書委員会による読み聞かせ交流を行う。	夕涼み会で、やぎさん一座を招き、紙芝居を上演した。	次年度も継続する。	

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度		
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題	
					3 地域	1 幼稚園・保育所・子育て支援センター	3 保護者に対する絵本の啓発を行う	① 保護者へ絵本の貸し出しや、年齢に合わせた絵本の紹介を行う。懇談会などに乳幼児期の読み聞かせの重要性についての内容を組み込み、啓発を行う	子育て支援センター
図書館(子どもの読書活動支援センター)	「えほんのきろく」にスタンプを押す機会を作り、図書館にこない保護者へも読書相談を受けることで、読み聞かせの重要性を伝えた。	引き続き、幼児期の読み聞かせの重要性を伝える事業を行う。	図書館へ来ない保護者へも、読書相談を受けることで、身近に本のある環境をつくり、読み聞かせの重要性を伝えた。	読み聞かせをしたり、子供と一緒に本を読んだり、図書館に行くことの楽しさ・重要性を伝える。					
保育所	保育室内に絵本の紹介コーナーを作り、お勤めの絵本を飾るなど、保育所ごとに保護者に興味を持ってもらえるように工夫しており、絵本の貸出件数が増えた保育所もある。	引き続き、絵本の紹介について工夫し、「えほんあついでぶっくる」の活用も進めていく。	・保育室内に絵本の紹介コーナーを作り、お勤めの絵本を飾るなど、保育所ごとに保護者に興味を持ってもらえるように工夫を行った。 ・あついでぶっくる本の貸し出しも好評で、親子で関心が高い様子があった。	あついでぶっくる本が好評だったため、引き続き活用しながら、親子で楽しめるように貸出図書の内容の充実を図っていく。					
幼稚園	幼稚園の絵本の貸し出しを行ったり、保護者懇談会で読み聞かせを実演して重要性を啓発した。	引き続き、幼稚園の絵本の貸し出しや、保護者懇談会等で読み聞かせの重要性を啓発する。	・懇談会で、保護者に対し、絵本の読み聞かせの重要性を説明した。 ・あついでぶっくる本を保護者に貸し出し、家庭での読み聞かせを推奨した。	次年度も、保護者の協力を得ながら、絵本の読み聞かせを推奨する。					
2 児童館・放課後児童クラブ	1 乳幼児～小学生を対象とした魅力あるおはなし会を行う	①	・青少年育成推進員や読み聞かせの団体などと協力し、読み聞かせやおはなし会などの事業を推進していく ・おはなし会に来た子には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す	児童館		青少年育成推進員によるおはなし会を実施(アビーランド:1回 24人、こどもの城:10回 380人) おひさま文庫によるおはなし会を実施(アビーランド:10回)【H29.1.31現在】	引き続きおはなし会を実施する。	・アビーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施している。 ・アビーランドではおひさま文庫によるおはなし会こどもの城では読み読みの城を実施している。	次年度も継続する。
				2 子どもが読書に親しみ環境をつくる		②	図書館の団体貸出・図書のリサイクルなども活用し、さらなる図書の充実を図る	放課後児童クラブ	日頃の保育の中で読書を実施 読み聞かせは夏休み等にいくつかのクラブで実施
児童館	図書リサイクルへの参加 各学童保育所での団体貸出を利用	引き続き、図書リサイクルに参加し、団体貸出を利用したい。 また、民間団体による寄贈図書を活用し、図書の充実を図りたい。	・図書リサイクルへ参加した。 ・いくつかのクラブにて団体貸出を利用した。					・引き続き、図書サイクルに参加し、団体貸し出しも積極的に利用したい。 ・寄贈図書を活用し、図書を充実させ、より子供たちが図書に興味を持つように働きかけたい。	
3 児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア	1 図書館と連携し、さらなる図書の充実を図る	①	子どもの読書活動推進事業費補助金の交付を受けたり、図書館の団体貸出・図書のリサイクルなども活用し、さらなる図書の充実、活動の充実を図る	自治会		【しらこぼと団地自治会】 年間の開館日数 176日 寄贈の受け入れ、年4回季節のイベント(3月桃の節句、5月端午の節句、7月七夕、12月クリスマス)に合わせた飾りを実施	前年度をベースに図書の充実・活動の充実を図っていく。	【しらこぼと団地自治会】 月・水・木・土曜日 15時30分~17時30分 年4回季節のイベント (桃の節句、端午の節句、7月七夕、12月クリスマス)の飾り付けを実施	次年度も継続する。
				児童文庫		【おひさま文庫】 年間開館日数 145日 図書リサイクルで15冊の本を活用 上平小、保育所、子育て支援センターなどで、人形劇及びおはなし会を実施 図書館まつりでおはなし会、人形劇を実施 【富士見団地自治会児童図書】 年間開館日数 24日 回覧物で定期的に啓蒙活動をしている(年11回)	前年度をベースに図書の充実・活動を図っていく。	【おひさま文庫】 開館日時 月曜日・木曜日15時~18時 上平小、上平北小、原市小、子育て支援センターなどで、おはなし会を実施 図書館まつりでおはなし会及び人形劇の実施 駅前分館で夏休みにおはなし会及び人形劇の実施 【富士見団地自治会児童図書】 開館日時 第一、第三土曜日 13時~15時 定期的に読書の啓蒙活動実施	前年度をベースに、図書の充実・活動を図っていく。

	地域	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度		
						実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題	
						3	児童文庫・自治会・読み聞かせボランティア	子どもたちとよい本を結びつける橋渡しとなる	① 子どもたちとよい本を紹介する ・おはなし会に来た子には、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す ② 図書館主催のステップアップ講座などに参加するなどして日々研さんを重ね、資質向上につとめる	読み聞かせボランティア
1	学校の役割	1 学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・充実を図る 2 新聞を活用した授業実践の充実を図る	① 学校図書館教育全体計画・年間指導計画の作成・内容の充実を図り、授業などでの学校図書館の活用を位置づける ② 司書教諭など研修会を通じて学校図書館に毎日配架されている新聞を活用した授業実践を取り上げ、情報交換を行い、各校での実践に生かせるようにする	学校	年度当初の教育課程作成時に、学校図書館教育全体計画・年間指導計画を各校で作成し、各教科の指導計画との関連を明らかにした。	さらに具体的に各教科領域の単元と関連付け、計画的な活用を促す。	引き続き、各小・中学校の教育課程において、学校図書館教育全体計画・年間指導計画を各校で作成し、各教科の指導計画との関連を明らかにした。	各教科等の単元と関連付け、計画的な活用を促すとともに、学校図書館教育の推進を図る。		
4	学校	1	「学校図書館図書標準」の早期達成をめざす	① 司書教諭、アップスマイル学校図書館支援員が中心となり、計画的に図書資料の整備、更新、充実を図る ・学校図書室のスペース拡張の検討、書架の購入	学校	計画的に図書の購入等を行うことができた。各校の工夫により、第二図書室の整備、書架の並び替えや配架の変更を行うことができた。	今後も計画的に蔵書の整備、更新を行い資料の充実を図る。	引き続き、計画的に図書の購入等を行うことができた。各校の工夫により、第二図書室の整備、書架の並び替えや配架の変更を行うことができた。	今後も計画的に蔵書の整備、更新を行い資料の充実を図る。	
				教育総務課	・不要図書の整備、新規購入を計画的に行った。 ・図書スペースの拡張は未実施。 ・瓦葺小学校で書架1台を購入した。	・図書資料の整備、更新を計画的に進めていきたい。 ・余裕教室の活用等を検討していきたい。 ・今後も書架の購入要望がある場合、優先的に購入していきたい。	平成30年度予算で書架購入予算を獲得	・平成30年度で書架購入学校を決定して購入する。 ・書架購入予算を平成31年度以降も引き続き要求していく。		
		2	学校図書館の整備	2 司書教諭等研修会の充実を図る	① 学校図書館の充実のために、これまで同様に研修会を実施するとともに、研修会の内容については、更なる読書活動推進のために検討する	指導課	年間3回の研修会を行った。新聞活用の取組や、教科領域指導に即した図書館の活用について周知するとともに、情報交換の場を設けることができた。	継続して研修会を実施し、司書教諭の在り方や、各校の取組の共有を行う。	・司書教諭等と学校図書館支援員合同の研修会を、年間2回行い、情報交換の場を設けることができた。 ・5月には、学校図書館教育の推進のため、中学校対象に、校長と司書教諭合同の研修会を実施した。	継続して研修会を実施し、各校の取組を共有し、学校図書館教育の推進を図る。
					図書館（子どもの読書活動支援センター）	司書教諭等の研修「子どもたちを本好きにしよう 本と出会うきっかけはブックトーク」講座を開催した。参加者 司書教諭12人 学校図書館関係者9人	司書教諭の研修会に更に係われるように、研修内容やPRの仕方など考えていく。	・司書教諭・学校図書館支援員研修「赤木かん子さんの学校図書館の作り方 魅力ある自然科学の棚づくり」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡をする 8回	司書教諭の研修会に更に係われるように、研修内容やPRの仕方など考えていく。	
					指導課	計画に基づき雇用時に3回、前期5回、後期4回の研修を行うことができた。各校の取組について共有し、広めることができた。	継続して研修会を計画し、効果的な取組の共有を図る。	計画に基づき雇用時に3回、前期5回、後期4回の研修を実施した。 ・各校の取組について共有し、広めることができた。	継続して研修会を計画し、効果的な取組の共有を図る。	
3	アップスマイル学校図書館支援員の研修会などの充実を図る	① 学校図書館の充実のために、これまで同様に研修会を実施する ・研修会の内容については、子どもの読書活動支援センターと連携し、更なる読書活動推進を図る	図書館（子どもの読書活動支援センター）	・司書教諭・学校図書館支援員研修「子どもたちを本好きにしよう 本と出会うきっかけはブックトーク」を開催 参加者 21人 ・学校図書館支援員研修「学校図書館の作り方 子どもの使いやすい図書館」講座を開催 参加者 45人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡をする。6回	計画的に講師派遣や助言を行い、学校図書館運営の実践力の積み重ねができるようつとめる。	・司書教諭・学校図書館支援員研修「赤木かん子さんの学校図書館の作り方 魅力ある自然科学の棚づくり」を開催 司書教諭・学校図書館支援員参加者 41人 ・「本の修理の基本を学ぼう」講座を開催 参加者 18人 ・学校図書館支援員研修会に参加し、助言・連絡をする 8回	計画的に講師派遣や助言を行い、学校図書館運営の実践力の積み重ねができるようつとめる。			

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度	
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題
4 学校	2 学校図書館の整備	4 各小中学校の学校図書館の一層の充実を図り、読書活動を推進するため、支援員の増員に向けて検討を進める	① アップスマイル学校図書館支援員の増員の要望を行う	指導課	支援員増員の要望を行ったが、増員はされなかった。	継続して増員を要望し、特に中学校での利用率向上が図れるようにする。	支援員増員の要望を行ったが、増員はされなかった。	継続して増員を要望し、特に中学校での利用率向上が図れるようにする。
		5 学校図書館の掲示・各コーナーの整備・充実を図る	① 司書教諭やアップスマイル学校図書館支援員が中心となり、学校図書館の掲示や新聞の活用、新刊や季節の本の展示コーナーなどの環境の整備・充実を図る	学校	各校において、定期的に掲示や本の展示が行われ、児童生徒の興味を喚起することができた。教科書で紹介されている本に関するコーナーなども特設され、利用しやすい環境を図った。	研修会等を通じて継続して、実践事例を共有し、効果的な取り組みが各校で実践できるようにする。	各校において、定期的に掲示や本の展示が行われ、児童生徒の興味を喚起することができた。 季節や行事に合わせたコーナー、教科書で紹介されている本に関するコーナーなども特設され、利用しやすい環境を図った。	研修会等を通じて継続して、実践事例を共有し、効果的な取組が各校で実践できるようにする。
		6 さらに学校図書館の情報化を図る	① 市立図書館の蔵書検索が学校図書館管理システムで可能となるか検討する	教育総務課	学校図書館管理システムの検討については未実施。	今後検討していきたい。	引き続き、検討中	図書館と調整会議を実施したい。
		7 長期休業中の学校図書館の開放・活用を図る	① 夏季休業日においては、全校で、開館日数を20日以上としており、取組内容を充実させることにより、さらに利用率を高める 冬季休業中においても学校の実情に合わせて、利用率を高める	学校	平成28年度から開館日数を16日以上とした。各校ごとに目標冊数を決めて、事前の貸出も含めて、児童生徒の利用を図った。	前年度の利用状況や児童数を考慮に入れ、目標を設定するとともに、事前の貸出も推進することで、利用率の向上を図る。	平成29年度から、開館日数を15日以上とした。 各校ごとに目標冊数を決めて、事前の貸出も含めて、児童生徒の利用を図った。	前年度の利用状況や児童数を考慮に入れ、目標を設定するとともに、休業前の貸出も推進することで、利用率の向上を図る。
	3 読書活動の取組	1 朝の読書をはじめとする一斉読書や読み聞かせを充実する	① 引き続き、全校一斉読書活動を実施する 中学校にも小学校での読み聞かせやブックトークなどを紹介し、取組を推進する	学校	朝読書などの一斉読書は、各小中学校で実施されている。 中学校でも読み聞かせを行っている学校がある。	研修会等を通じて各校の取組を共有し、効果的な取組が実施できるようにする。	朝読書などの一斉読書は、各小中学校で実施されている。 中学校でも読み聞かせを行っている学校がある。	研修会等を通じて各校の取組を共有し、効果的な取組が実施できるようにする。
		2 「子ども読書の日」に関する取組の充実・周知を図る	① 引き続き、司書教諭やアップスマイル学校図書館支援員を中心に、研修会などでそれぞれの学校の取組を紹介しながら、取組を充実するとともに、保護者へ「子ども読書の日」を周知する	学校	「子ども読書の日」のイベントを各学校で行うことができた。	期間中の利用促進を図るとともに、保護者への周知も継続して行う。	引き続き、平成29年度も継続して行うことができた。	期間中の利用促進を図るとともに、保護者への周知も継続して行う。
		3 「学校応援団」・ボランティアの活用を図る	① 司書教諭等研修会を通じて、情報交換を行い、各校の実践に生かす	学校	学校応援団・ボランティアの活用については資料を通じて各校に紹介することができた。	研修会でも話題に取り上げ、学校応援団やボランティアの活用を促す。	読み聞かせや長期休業中の貸出ボランティアなどの協力を得ることができた。	地域の実態に合わせて、学校応援団やボランティアの活用を促す。
	4 あっぴいぶつくるセット本・団体貸出本の利用	1 図書館と市内小・中学校、市立幼稚園が協力して、市図書館所蔵の読み物セットをすべての小中学校・市立幼稚園に長期間一括貸出する「あっぴいぶつくるセット本」事業を行う	① 事業の円滑な運用を目指す	学校図書館	「あっぴいぶつくるセット本」の活用については継続して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	「あっぴいぶつくるセット本」の活用については、継続して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	年度途中から「あっぴいぶつくるセット本」の発着を図書館本館から子どもの読書活動支援センターに変更し、支援センターで管理するようになった。学校の休校などの対応や本の管理など円滑にできた。 平成28年度あっぴいぶつくるセット本の活用 幼稚園 8回 120冊 小学校 112回 10,440冊 中学校 33回 990冊 合計 153回 11,550冊	引き続き、学校の要望等に臨機応変に対応する。	・「えほんあっぴいぶつくる」「あっぴいぶつくるセット本」の管理を子どもの読書活動支援センターで行うこととなった。学校の休校などの対応や本の管理など円滑にできた。 平成29年度えほんあっぴいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊 小学校 92回 8,280冊 中学校 44回 1,320冊 合計 136回 9,600冊	破損した本については、新しい本に買い替えをし、事業を継続していく。
				② 市立保育所で同事業を行うことを検討する	平成29年度から、保育所・幼稚園の中で絵本を巡回貸出する「えほんあっぴいぶつくる」事業を開始する。この絵本のリストを公開する準備を進めている。	平成29年5月より事業開始。円滑な運営を目指す。	今年度から、保育所・幼稚園の中で、絵本を巡回貸出する「えほんあっぴいぶつくる」事業を開始した。 平成29年度えほんあっぴいぶつくるセット本の活用 幼稚園・保育所 80回 2,400冊	引き続き、子どもの読書活動支援センターが推奨する本のリスト作成を行い、家庭・学校・地域に向けて提供する。



	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度	
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題
5 家庭・地域・学校をつなぐ取組	1 まちかど図書館	1 出張おはなし会や出張読書イベントの際に、関連する本を持っていきその場で貸し出しを行う	① 図書館に来たことがなかったり来られなかったりする子どもや保護者にもより身近な場所で図書館の機能を利用してもらう	図書館（子どもの読書活動支援センター）	まちかど図書館実施に向けて、図書館システム担当・児童担当・青少年担当等と検討中	新館オープンに向けて、図書館以外の場所で「まちかど図書館」を実施できるようなシステム構築を検討する。	引き続き、まちかど図書館実施に向けて、図書館システム担当・児童担当・青少年担当等と検討中	図書館以外の場所で「まちかど図書館」を実施できるようなシステム構築を検討する。
			① 活用方法について、保護者へ周知する	学校	「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着している。	子どもの読書活動支援センターと連携し、今後も継続して活用を促していく。	引き続き、「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着している。	子どもの読書活動支援センターと連携し、今後も継続して活用を促していく。
	1 「読書パスポート」「えほんのきろく」を家庭で活用し、親子で本についての会話を広げる	① 活用方法について、保護者へ周知する	学校や児童館、読み聞かせボランティアを通して保護者への周知を図った。	図書館（子どもの読書活動支援センター）	引き続き、学校や児童館、読み聞かせボランティアを通して周知できるようにする。	引き続き、学校や児童館、読み聞かせボランティアを通して保護者への周知を図った。	引き続き、学校や児童館、読み聞かせボランティアを通して周知できるようにする。	
			「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着している。週末読書等を設定している学校もある。	学校	研修会等を通じてよい取組を共有していく。	「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着し週末読書、家読等を推進している学校がある。	研修会等を通じてよい取組を共有していく	
		② 「読書パスポート」「えほんのきろく」を通して、親子で本について、会話する時間をつくってもらおう工夫する	「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着している。週末読書等を設定している学校もある。	図書館（子どもの読書活動支援センター）	図書館、学校がさらに「読書パスポート」「えほんのきろく」をPRし子供たちに読書習慣がつかうようにする	・「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着し家庭においても休日にパスポートを使用するようになってきている ・おはなし会でパスポートを持参した時、児童に家で本について、話をしていることを確認した。	引き続き、図書館、学校がさらに「読書パスポート」「えほんのきろく」をPRし、子供たちに読書習慣がつかうようにする。	
			「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着している。週末読書等を設定している学校もある。	学校	研修会等を通じてよい取組を共有していく。	「読書パスポート」については取組が周知され、活用が定着し週末読書、家読等を推進している学校がある。	研修会等を通じてよい取組を共有していく	
	2 「読書パスポート」「えほんのきろく」	2 「読書パスポート」「えほんのきろく」を地域で活用し、上尾の読書推進につとめ「読み聞かせのまちあげお」をつくる	① 活用方法について、地域へ周知する	児童館	毎月発行する行事予定表に記載している。	引き続き行事予定表に記載して周知する。	毎月発行する行事予定表に、記載している。	毎月発行する行事予定表に、記載している。
				青少年課	未実施	地域への周知についてどのような手法があるか検討をする。	未実施	読書パスポート等の良さを周知できるような方法を検討する。
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	読み聞かせボランティアの活動や児童館等を通して、地域への周知を図った。	引き続き、読み聞かせボランティアや児童館等を通して地域に周知できるようにする。	引き続き、読み聞かせボランティアの活動や、児童館等を通して、地域への周知を図った。	引き続き、読み聞かせボランティアや児童館等を通して、地域に周知できるようにする。
				読み聞かせボランティア	おはなし会、えほんのじかんの時に、「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押した。	引き続き読み聞かせを続け、多くの子どもたち保護者におはなしの楽しさ、読書の大切さを伝えていく。	引き続き、おはなし会、えほんのじかんの時に「えほんのきろく」や「読書パスポート」にスタンプを押す、また、おはなしを聞きにきてくれるような取組を図った。	引き続き読み聞かせを続け、多くの子供たちや保護者に本の楽しさ、大切さを伝えていく。
児童文庫				【おひさま文庫】お話し会には未就学児が多いため、「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用は少ない。 【富士見団地自治会児童図書】「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用はほとんどない。	「読書パスポート」「えほんのきろく」の活用に関するPRを検討する。	【おひさま文庫】おはなし会には未就学児が多いため、「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用は少ない。 【富士見団地自治会児童図書】「読書パスポート」「えほんのきろく」の利用はほとんどない。	「読書パスポート」「えほんのきろく」の活用に関するPRを検討する。	
児童館				アップランド・藤城清治絵本読み聞かせを実施 こどもの城・読み語りの城を実施、読み聞かせ3人会を実施	引き続き事業を実施する。	・アップランドとこどもの城では青少年育成推進員によるおはなし会を実施した。 ・アップランドではおひさま文庫によるおはなし会を実施した。	次年度も継続する。	

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度				
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題			
					5	家庭・地域・学校をつなぐ取組	2	「読書パスポート」・「えほんのきろく」	2	「読書パスポート」「えほんのきろく」を地域で活用し、上尾の読書推進につとめ「読み聞かせのまちあげお」をつくる	② 「読書パスポート」の中の「宝島スタンプラリー」にスタンプが押せる機会をたくさん用意する
				図書館（子どもの読書活動支援センター）	学校や公民館や自然学習館等たくさんの場所で、読み聞かせや講座を開き「宝島スタンプラリー」を活用できるようにした。	引き続き、地域のさまざまな場所で読み聞かせが行われるようにする。	引き続き、学校や公民館や自然学習館等たくさんの場所で、読み聞かせや講座を開き「宝島スタンプラリー」を活用できるようにした。	おはなし会や講座に参加して、宝島スタンプラリーを集めることを楽しみにしている子供たちがいるので、スタンプを押せる機会を作りたい。			
				読み聞かせボランティア	図書館や地域でのおはなし会の際に、スタンプを押している。	引き続き「宝島スタンプラリー」に協力する。	引き続き、図書館や地域でのおはなし会の際に、スタンプを押した。	引き続き事業に協力する。			
				児童文庫	おはなし会の際に、スタンプを押している。	おはなし会の際にはスタンプを押す。	おはなし会の際にスタンプを押した。	引き続きおはなし会の際にはスタンプを押す。			
				児童館	定期的に事業を開催した。	引き続き定期的に事業を開催する。	引き続き、定期的に事業を開催した。	引き続き、定期的に事業を開催する。			
				青少年課	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つである、小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読みかきかせを開催した。 学校 年間15日、児童館 年間12回、自然学習館 1回	青少年育成団体で、読書パスポート等をどのように活用できるか検討を行う。	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つとして、小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読みかきかせを開催した。	青少年育成団体、放課後児童クラブ等に読書パスポートをどのように活用できるか、検討を行う。			
				③ 図書館、児童館、児童文庫、青少年育成団体、放課後児童クラブなどに活用の場を設ける	図書館（子どもの読書活動支援センター）	・児童館、児童文庫には、「読書パスポート」に押すスタンプを配布し読み聞かせを行った。 ・児童館、児童文庫に「えほんのきろく」の配布を依頼した。	青少年団体や放課後クラブなどにも活動を広げるように計画を進めていく。	引き続き、児童館、児童文庫には、「読書パスポート」に押すスタンプを配布し読み聞かせを行った。 ・児童館、児童文庫に「えほんのきろく」の配布を依頼した。	青少年団体や放課後クラブなどにも活動を広げるように、計画を進めていく。		
				児童文庫	おはなし会の際に、スタンプを押した。	引き続きおはなし会の際にはスタンプを押す	引き続き、おはなし会の際にスタンプを押した。	引き続き、おはなし会の際には、スタンプを押す。			

取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度	
				実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題
				5	家庭・地域・学校をつなぐ取組	2	「読書パスポート」・「えほんのきろく」
	④ 「読書パスポート」「えほんのきろく」を地域で活用し、上尾の読書推進につとめ「読み聞かせのまちあげお」をつくる	④ 読み聞かせボランティアの協力で出張おはなし会を開催する	児童館 未実施	実施できるかどうか検討する。	未実施	すでに実施しているおはなし会に加え、実施できるかを検討する。	
			青少年課 青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つである、小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読みきかせを開催した。 学校 年間15日、児童館 年間12回、自然学習館 1回	「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つである、小学校や児童館での読みきかせを支援していく。	青少年課が事務局を務める「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つである、小学校や児童館で、大型紙芝居も使用した読みきかせを開催した。	「上尾市青少年育成推進員協議会」の活動の一つである、小学校や児童館での読みきかせを今後も維持継続できるように、支援していく。	
			図書館（子どもの読書活動支援センター） 現在、図書館・子どもの読書活動支援センターで行っている事業のほとんどが読み聞かせボランティアの協力で行われている。	引き続き、読み聞かせボランティアの協力のもと、魅力ある事業を展開する。	引き続き、図書館・子どもの読書活動支援センターで行っている事業のほとんどが、読み聞かせボランティアの協力で、行われている。	引き続き、読み聞かせボランティアの協力のもと、魅力ある事業を展開する。	
			読み聞かせボランティア 子どもの読書活動支援センターと協力して、自然学習館コラボ事業や、「おやこでえほんサロン」でおはなし会を行っている。	引き続き図書館、子どもの読書活動支援センター等の事業に協力する。	子どもの読書活動支援センターと協力して、自然学習館コラボ事業や「おやこでえほんサロン」(東保健センター)で、おはなし会を行っている。	引き続き図書館、子どもの読書活動支援センター等の事業に協力する。	
			児童文庫 【おひさま文庫】 小学校への読み聞かせ(上平小、原市小)を実施	前年度をベースに可能な限り実施する。	【おひさま文庫】 引き続き、小学校への読み聞かせ(上平小、上平北小、原市小)を実施	前年度をベースに可能な限り実施する。	
			学校 ・計画通り実施することができた ・平成28年度は、学校図書館支援員研修で、本事業に関連した研修を行うこともできた	継続して事業の円滑な運用を促す。	引き続き ・計画通り実施することができた。 ・平成29年度は、学校図書館支援員研修で、本事業に関連した研修を行うこともできた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	
			学校図書館 ・「読書パスポート」配布及びおはなし会の実施については計画通り実施できた ・「読書パスポート」は、読書活動の推進に、効果的に活用された	継続して事業の円滑な運用を促す。	引き続き、 ・「読書パスポート」配布及びおはなし会の実施については計画通り実施できた。 ・「読書パスポート」は、読書活動の推進に、効果的に活用された。	継続して事業の円滑な運用を促す。	
			図書館（子どもの読書活動支援センター） 連携がスムーズにでき、「読書パスポート」配布おはなし会が開催できた。また、「読書パスポート」の使い方が十分に理解され、学校での活用が進んでいる。1,913人に配布	引き続き、連携を密にして「読書パスポート」の活用が進むようにPRにつとめる。	引き続き、 ・連携がスムーズにでき、「読書パスポート」配布及びおはなし会が開催できた。 ・「読書パスポート」の使い方が十分に理解され、学校での活用が進んでいる。1,943人に配布	図書館員が小学校を訪問し、「読書パスポート」の説明、配布することによって学校との連携をとることができ、子供たちにも図書館を身近に感じることができる。	
			読み聞かせボランティア 「読書パスポート」配布時に、おはなし会を市内全小学校の1年生に行うとともに、図書館のおはなし会を紹介し参加を呼び掛けた。	引き続き、図書館と協力して「読書パスポート」配布おはなし会を実施し、PRにつとめる。	市内全小学校1年生に、「読書パスポート」配布時に図書館のおはなし会を紹介した。	引き続き、図書館と協力して「読書パスポート」配布及びおはなし会を実施し、PRにつとめる。	
			学校 計画に基づいて実施することができた。読み聞かせボランティアの活用についても各校ごとに地域の人材等も活用して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	引き続き、計画に基づいて実施することができた。読み聞かせボランティアの活用についても各校ごとに地域の人材等も活用して行うことができた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	
			学校図書館 計画通り実施できた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	引き続き、計画通り実施できた。	継続して事業の円滑な運用を促す。	

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度				
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題			
5	家庭・地域・学校をつなぐ取組	3	・「読書パスポート」を学校で活用し、学校での読書活動を活性化させる ・「読書パスポート」をとおして学校と図書館の連携を強化する	②	子どもの読書活動支援センターや読み聞かせボランティアによる学校への出張おはなし会の開催	図書館（子どもの読書活動支援センター） ・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 7校 133クラス 4,058人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 5校 22クラス 508人 ・AYYレンジャーによる朗読 1校 4クラス 139人 ・学校図書館支援員と支援センター職員によるブックトーク 1校 4クラス 139人	学校へのPRをし、さらに広がるようにつとめる。	・「上尾おはなしの会」によるおはなし会 7校 147クラス 4,104人 ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」による科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 7校 24クラス 465人 ・学校図書館支援員と支援センター職員によるブックトーク 1校 3クラス 117人	学校の要望に答えられるよう、読み聞かせボランティアの育成に努める。		
					読み聞かせボランティア	・「上尾おはなしの会」のおはなし会 7校 133クラス ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」の科学絵本の読み聞かせ・科学遊び 5校 22クラス	引き続き、学校でのおはなし会を行い、「読書パスポート」活用に協力する。	・「上尾おはなしの会」のおはなし会 7校 147クラス ・AYYレンジャー「サイエンスの杜ワンダーワンダー」の科学絵本の読み聞かせ 7校 24クラス	引き続き、学校でのおはなし会を行い、「読書パスポート」活用に協力する。		
					③	「読書パスポートコンクール」へ参加する	学校 計画に基づいて実施することができた。	開催時期・開催方法など実施上の課題については、学校、図書館と協議し今後見直していく必要がある。	引き続き、計画に基づいて実施することができた。	次年度も継続する。	
							学校図書館 「読書パスポートコンクール」については各学校に周知され、長期休業中などを活用して参加が見られた。全小学校から推薦された優秀な作品を表彰した。	継続して事業の円滑な運用を促す。	引き続き、「読書パスポートコンクール」については各学校に周知され、長期休業中などを活用して参加が見られた。全小学校から推薦された優秀な作品を表彰した。	継続して事業の円滑な運用を促す	
						①	図書館・児童館・児童文庫などの読書イベントで未就学児に「えほんのきろく」を配布し、「ぶち宝島スタンプラリー」にスタンプを押す	児童館 アッピーランド・藤城清治絵本読み聞かせを実施 こどもの城おはなしの城を実施	引き続き事業を実施する。	・アッピーランドとこどもの城では、青少年育成推進員によるおはなし会を実施している。 ・アッピーランドでは、おひさま文庫によるおはなし会、こどもの城では、読み語りの城を実施している。	次年度も継続する。
						①	図書館・児童館・児童文庫などの読書イベントで未就学児に「えほんのきろく」を配布し、「ぶち宝島スタンプラリー」にスタンプを押す	図書館（子どもの読書活動支援センター） 読み聞かせや読書イベント等で、「えほんのきろく」を配布し活用を促した。また、「えほんであそぼ!」を紹介し、保護者への啓発活動をした。 「えほんのきろく」配布数 12月現在800冊	「えほんのきろく」の活用は家庭・地域に浸透してきている。今後はさらに「えほんのきろく」に掲載している絵本のリスト、「えほんであそぼ!」の活用を促していく。	読み聞かせや読書イベント等で、「えほんのきろく」を配布し活用を促し、また「えほんであそぼ!」を紹介し、保護者への啓発活動をした。 「えほんの記録」配布数 400冊	・「えほんのきろく」の活用は家庭・地域に浸透してきている。 ・今後は更に、「えほんのきろく」に掲載している絵本のリスト「えほんであそぼ!」の活用を促していく。
	4	「えほんのきろく」を活用し、幼い時期から読書に親しむ習慣をつける	①		ボ読み聞かせ スタンプを押印している。	引き続き事業に協力する。	スタンプを押印している。	次年度も継続する。			
					児童文庫 おはなし会の際に、スタンプを押している。	引き続き事業に協力する。	スタンプを押印している。	引き続き事業に協力する。			
					児童館 未実施	絵本の紹介をする。	未実施	絵本の紹介をする。			
			②	図書館のおはなし会や地域のおはなし会で「えほんであそぼ!」の絵本を紹介する	図書館（子どもの読書活動支援センター） ・保健センターで行っている「おやこでえほんサロン」で、図書館発行のパンフレットや冊子を希望者に配布している。	・引き続き、絵本の情報などを発信していく。 ・図書館職員の「えほんのじかん」等で「えほんであそぼ!」の絵本を展示し、PRにつとめることを検討する。	引き続き、保健センターで行っている「おやこでえほんサロン」で、冊子を配布し良い絵本と出あえる機会を作った。	・引き続き、絵本の情報などを発信していく。 ・図書館職員の「えほんのじかん」等で「えほんであそぼ!」の絵本を展示し、PRにつとめることを検討する。			

第3章 情報提供の充実

	取組	目標	施策	主体	平成28年度		平成29年度			
					実施状況	今後の課題	実施状況	今後の課題		
1	各種パンフレット	「赤ちゃんといっしょに絵本をたのしもうーブックスタートあげおー」 「このえほんたのしいよ!!」 「よんでごらん」 「おはなし会・えほんのじかん市内一覧」 「こどもしつだより」 「Next Generation」	子どもと本を結び付けるため図書館が薦める図書の情報を発信する	① ブックリストの内容を見直したり新たな資料を加えたり内容を更新する	図書館	「こどもしつだより」など過年度と重ならないようにテーマを決めるように努めた。 「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。	来年度以降も継続する。	・「こどもしつだより」など過年度と重ならないようにテーマを決めるように努めた。 ・「よんでごらん」は毎年内容を更新し、発行した。 ・年4回「Next Generation」を発行し新鮮な切り口のテーマで、幅広い分野から資料を集めるよう心掛けた。	次年度も継続するし、良い本を紹介する。	
2	市広報紙	「図書館へようこそ」のページの中さまざまな情報を発信することで、図書館を中心に展開される活動への認知度を上げる	・「図書館へようこそ」の中で紹介する子ども対象のイベントの告知を魅力的なものにする ・「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーでは、特に子供対象のイベントやボランティア活動情報を掲載し、子どもを取り巻くさまざまな読書活動の状況を市民が把握しやすくする	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	・「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーが市民に周知され、主催講座の申し込みが増えた。 講座参加者アンケートのうち、講座を知ったきっかけを「広報あげお」と答えた人の割合47.0%	引き続き、魅力ある広報紙づくりに努める。	「子ども読書活動支援センター あっぴい ぶっくる」のコーナーが市民に周知され、主催する講座の情報発信を行った。	今後も、魅力ある広報紙づくりに努める。	
3	図書館ホームページ	子どもの視点に立った図書館ホームページの充実	子どもが自ら閲覧、活用できるような仕組みを図書館ホームページ機能に追加することを検討する	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	・図書館ホームページの活性化のために、子ども自身が活用できる内容を充実させることにより、検索機能、調べ学習に対する対応など多様化する子どもの図書館の利用の仕方に対応する ・本市の郷土資料について自ら情報に触れるコンテンツを充実させることで郷土愛を育むきっかけとする	図書館ホームページ内にある「子どものページ」の内容を追加し、youtubeに乗せた子どもの読書活動推進テーマ曲へのリンクページを作成した。	・「こどものページ」の中身に新しいコンテンツやリンク先を更に掲載する。 ・こども専用のイベント項目を作り、情報を発信しページのPRを行う。	ホームページ内の「こどものページ」を活用した。	・「こどものページ」の中身に新しいコンテンツやリンク先を更に掲載する。
4	「読み聞かせのまちあげお 上尾市図書館」フェイスブックの運用	より市民に身近な、地域からの情報を収集し、タイムリーに発信する	「(仮称)子ども読書活動推進連絡会」「(仮称)図書館・学校・学校図書館連絡会」「(仮称)図書館・学校・学校図書館連絡会」などを通して情報収集に努める	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	ボランティア連絡会で、地域の情報の収集を行い、フェイスブックに掲載した。	図書館、子どもの読書活動支援センターの情報にとどまらず、子どもたちに身近な地域の本に関する情報を多数掲載することに努める。	ボランティア連絡会で、地域の情報の収集を行い、フェイスブックに掲載した。	図書館、子どもの読書活動支援センターの情報にとどまらず、子供たちに身近な地域の本に関する情報を多数掲載することに努める。	
5	「子どもの読書活動支援センター」ツイッター	読書活動推進に有用な、魅力ある情報を提供する	支援センターの講座などを通し、魅力ある情報を親しみやすい文体で提供する	①	図書館（子どもの読書活動支援センター）	ツイッターにより、講座や本の情報など多くの情報を発信している。 フォロワー数 1,248人	講座などの情報に加え、読書に関したより身近な情報を発信していく。	ツイッターにより、講座や本の情報など多くの情報を発信している。 フォロワー数 1,900人	講座などの情報に加え、読書に関したより身近な情報を発信していく。	